



※一般質問の内容は議員自身が2月定例会議事録に基づき記述しています。

QRコードを読み取り、令和3年2月定例会を選択すると視聴できます。



さいとう かずふみ
齋藤 和文 議員
(公明会)

コロナ禍・コロナ後の対応と要望について

問 イベント・各種スポーツ大会の開催やプール営業再開の判断基準とタイミングについて。

部長 国の新型インフルエンザ特措法の下、市は国・県の方針に基づき、市主催は担当課の対応方針、各種団体の場合にはガイドラインに沿って、延期や縮小・開催の可否を判断している。開催する場合には徹底した感染防止対策をとる。

部長 各種スポーツ大会については、市新型コロナ感染症対策本部会議の考えに基づき最終判断は市で行っている。プールについては、屋内プールは3密を避け、人数制限・時間制限を設けて令和2年度は営業。令和3年度においても同様の考えで営業を行う。屋外プールについては令和2年夏、保安要員の確保が難しいとの判

断から、市対策本部に諮り中止を決定した。

問 公園への露店等の出店は可能か。

部長 都市公園法・市都市公園条例において、公園管理者の許可が必要となる。出店面積により公園占用許可及び使用料が発生する。

問 お祭りが中止となり、露店商やキッチンカー等の出店者の金銭以外の支援策は何か考えているのか。

市長 何かのイベントに抱き合わせする形で考えていくしかない。非常に難しいが検討はしていきたい。

部長 例えばイベント的に仕立てをしながら、露天商やキッチンカー等の販売を創出する検討を進めていきたい。

問 パルスオキシメーター※の導入について。

部長 自宅療養者用に県が貸し出しを行っている。県は600台所有、400台追加購入し合計1,000台確保。市として購入する予定はない。

※パルスオキシメーターとは、皮膚を通して動脈血酸素飽和度を測定する機器。酸素飽和度の低下により肺炎の可能性を図ることが可能。



えんどう ひであき
遠藤 英明 議員
(蒼天)

令和3年度富士宮市予算編成について

問 コロナ禍における2020年度決算予測（法人）をいかに捉え新年度予算編成をされたか。

部長 最終調定額から特例制度による徴収猶予額を差し引いた額に収納率を乗じた額を決算見込額とした。前年度比約30%減となった。

問 自主財源である市税について、法人・個人の算定根拠をどのように予測されたのか伺う。

部長 法人市民税は、新型コロナウイルス感染症による影響率を推計し、令和2年4月から10月までの調定額及び前年度の調定実績を基に算定した。個人市民税については、従業員への給与支払見込額が個人事業主、法人ともに約4%の減少であることに加え、国の緊急経済対策等による影響を考慮し、税制改正の影響額を加算した額を令和3年度予算額とした。

脱炭素2050年へ政府計画の原案から富士宮市の取組について伺う

問 国の「カーボンニュートラル（温室効果ガス排出を全体としてゼロにすること）」に呼応した市の取組「ゼロカーボンシティ（2050年までに脱炭素化を目指すこと）」を行う背景は。

部長 国を挙げて「ゼロカーボンシティ」を目指す自治体を支援する方針を打ち出したことから、国の動きに呼応して脱炭素社会の実現に貢献するため表明するに至った。

問 産業界は脱炭素宣言を最大のビジネスチャンスと捉えている。それには行政の支援が不可欠と思われるが、市ではどのような支援を考えているか。

部長 今後は積極的に温暖化対策を行う事が産業構造や経済社会の変革をもたらす大きな成長につながるという発想の転換が求められる。市では「富士宮市地域循環共生圏推進協議会」を設立し、地域資源を生かしたビジネスの創出を目指し、民間活力の向上を図っていく。